

村上春樹とアダプテーション研究



(広島県呉市大崎上島町上蒲刈島：「ドライブ・マイ・カー」舞台)

vol.2
2024.1

【目次】	…2
【論文】	
・内田康	: “擬態”としての〈アメリカ〉 / 〈神戸〉 —村上春樹『風の歌を聴け』と、その映画化をめぐる— …3
・藤城孝輔	: 反復されるアダプテーション —「パン屋（再）襲撃」および「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」映像化作品におけるグローバル時代の戦術— …25
【研究ノート】	
・山根由美恵	: 「バーニング」韓国調査 —江南・平倉洞・厚岩洞・坡州市— …53
・伊藤弘了	: 喪失と再生の過程を歩く —映画『すずめの戸締まり』における足元の描写— …65
【書評】	
・内田康	: 大いなる〈序章〉、あるいは助走 —横道誠著『村上春樹研究 サンプリング、翻訳、アダプテーション、批評、研究の世界文学』 …71
・山根由美恵	: 武内佳代著『クィアする現代日本文学 ケア・動物・語り』 …77
・ダルミ・カタリン	: Jonathan Dil 著 <i>Haruki Murakami and the Search for Self-Therapy: Stories from the Second Basement</i> …81
・阿部翔太	: 佐藤元状・冨塚亮平編著『『ドライブ・マイ・カー』論』 …85
【編集後記】	…90

【編集後記】

『村上春樹とアダプテーション研究』Vol.2をお届けします。2023年度は諸事情で教務委員長となり、別業務が増え、鍛えられる年でした。本号は2本の研究論文、2本の研究ノート、4本の書評で構成しました。本誌の特徴として枚数や画像の掲載件数に制限を設けないという点がありますが、精査な調査に基づく資料的価値等が加わったものとなっており、村上春樹文学におけるアダプテーション研究の底上げを行なえたのではないかと考えております。ただ、本号は論文・研究ノートが全て映画を扱っており、アダプテーション研究という特色を出すことができたとはいえませんが、次号は別の方向性の論考を出せるように、まずは自分自身の研究を進めたく存じます。書評に関しては、村上に関する研究関係書籍を網羅でき、充実した内容となりました。なお、執筆者は現在科研メンバー中心の構成となっておりますが、投稿には制限を設けてはいませんので、投稿希望の方はご連絡いただくと幸甚です。

(山根 由美恵)

『村上春樹とアダプテーション研究』2号

発行日 2024年1月31日

発行者 村上春樹とアダプテーション研究会

連絡先 〒753-8513 山口県山口市吉田 1677-1

山口大学教育学部 山根由美恵研究室内

yumie@yamaguchi-u.ac.jp

ウェブサイト

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~haruki-adapt/>